

高度な港湾技術を多数採用



コンテナターミナル全景

ケニア南部に位置するモンバサ港は同国唯一の国際貿易港湾であり、東アフリカ最大の港湾として重要な役割を果たしている。同国で輸出入の機能を担うだけでなく、周辺国のタンザニアやウガンダ、ルワンダ、南スーダンなどへの物流でも重要なターミナルとなっている。

コンテナ貨物取扱容量は現在165万TEU（2017コンテナ換算）。2012年から10年間で1・8倍に増加し、02年と比べると6倍にもなっている。将来的にも需要が増加し続けると予想されている。需要増に対応するため、日本政府の支援を受け

モンバサ港開発事業2期

(ケニア)

新たなコンテナターミナルを建設。「コンテナターミナルの拡張工事」は東洋建設が担った。日本の高度な港湾技術を多く採用し、高品質で長期耐久性のある施設を整備した。

工期は18年9月～22年5月。ケニア港湾公社が発注し、設計は日本港湾コンサルタントが務めた。コンテナゲートや管理棟など港湾運営に必要な施設、荷揚げに使用するガントリークレーンのほか、機械機器メンテナンスを行う整備棟なども設けた。

コンテナターミナルの機能を強化するため、100万TEU以上を増強。工事は1期と2期に分けて実施した。2期は1期の現場に隣接する場所にヤードを整備し、管理棟やコンテナゲ



ターミナルゲート他
管理施設

軟弱地盤の改良工では、プレファブリケイティッドバーチカルドレーン工（PVD工法）を採用した。垂直排水材により地下水の排出を促し、地盤の圧密期間を短縮。素早く強固な地盤を形成できるため、早期のコンテナターミナルの供用開始につながった。

日本技術の移転や共有は、ケニアや東アフリカの自律的な経済成長を後押しする狙いもある。一方、日本企業のケニア進出の背中を押すことにもなっている。35～50mの長尺鋼管杭の打設や、杭の重防食、地盤改良工と圧密沈下の管理技術などを採用し、長期的な耐久性を持つコンテナターミナルを実現した。

（おわり）

